徒然草「猫またといふものありて」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前

「奥山に猫またといふものありて」を読んで、問いに答えなさい。

「奥山に猫またといふものありて、人を食らふなる。」と人の言ひけるに、「山ならねども、これらにも、猫の①**経上がりて**、猫またになりて、人取ることはあなるものを。」と言ふ者ありけるを、何阿弥陀仏とかや、②**連歌**しける法師の、③**行願寺**の④**辺**にありけるが聞きて、ひとりありかん身は、心すべきことにこそと思ひける頃しも、ある所にて夜⑤**更くる**まで連歌して、ただひとり帰りけるに、小川の⑥**端**にて、音に聞きし猫また、あやまたず足もとへふと寄り来て、やがてかきつくままに、⑦**頸**のほどを食はんとす。胆心もうせて、防がんとするに、力もなく、足も立たず、小川へ転び入りて、「助けよや、猫またよやよや。」と叫べば、家々より松どもともして走り寄りて見れば、このわたりに身知れる僧なり。
「こはいかに。」とて、川の中より抱きおこしたれば、連歌の賭け物取りて、扇、小箱など⑧**懐**に持ちたりけるも、水に入りぬ。⑨**稀有**にして助かりたるさまにて、はふはふ家に入りにけり。
飼ひける犬の、暗けれど主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。

問１　下線①～⑨の読みを送り仮名も含めてひらがなで答えなさい。ただし、歴史的仮名遣いが使われている場合は、現代仮名遣いに直すこと。

①　　②

③　　④

⑤　　⑥

⑦　　⑧

⑨

問２　「連歌しける法師の、行願寺の辺にありけるが聞きて」を現代語に訳して書きなさい。

問３　「ひとり歩かん身は、心すべきことにこそと思ひける」を現代語に訳して書きなさい。

© 2019- ゆみねこの教科書

問４　「音に聞きし猫また」を現代語に訳して書きなさい。

問５　「あやまたず」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び〇でかこみなさい。

ア：あやまって
イ：待つことなく
ウ：狙い違わず
エ：あやまることなく

問６　「やがて」の意味を答えなさい。

問７　「胆心も失せて」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び〇でかこみなさい。

ア：正気を失って
イ：命からがら
ウ：抵抗する気力もなく
エ：大怪我をして

問８　「松」とは何のことか答えなさい。

問９　「ひとり歩かん身は、心すべきことにこそと思ひける」と法師が思った理由として
もっとも正しいものを次の中から選び〇でかこみなさい。

ア：奥山に猫またが出て人を食べてしまうから
イ：連歌の賞品を持って歩くことがあるから
ウ：夜遅く歩くことがあるから
エ：このあたりにも猫またが出るから

問１０　法師を襲った猫またの正体を、古文から5字で抜き出して答えなさい。

© 2019- ゆみねこの教科書

問１１　猫またに襲われた法師の様子として、正くないものを次の中から選び〇でかこみなさい。

ア：たいまつを持っている人を見かけて、助けを呼んだ
イ：あまりの恐ろしさに腰を抜かしてしまった
ウ：連歌の賞品を水にぬらしてしまった
エ：大声で助けを呼んだ

問１２　「飼ひける犬の、暗けれど主を知りて、飛びつきたりける」を具体的に書いている部分を古文から探し、句読点も含めて抜き出して答えなさい。

問１３　この文章のテーマとして最もふさわしいものを次の中から選び〇でかこみなさい。

ア：恐ろしい妖怪に怯える人々の暮らし
イ：欲深い法師の災難
ウ：うわさに惑わされる人間のこっけいさ
エ：注意を聞かないことの愚かさ

© 2019- ゆみねこの教科書

徒然草「猫またといふものありて」定期テスト対策練習問題（解答）

問１ ① へあがりて ② れんが
③ ぎょうがんじ ④ ほとり
⑤ ふくる ⑥ はた
⑦ くび ⑧ ふところ
⑨ けう

問２ （例）連歌を生業としている、行願寺の近くに住んでいた法師が聞いて
【解説】「辺（あたり）」「近く・付近」。「あり」は「いる・存在する」という意味。

問３ （例）ひとりで歩く身としては、気をつけなくてはならないと思っていた

問４ （例）うわさに聞いていた猫また
【解説】「音」は「うわさ・評判」という意味を持つ。

問５ ウ

問６ すぐに
【解説】現代の「やがて」は少し時間がたってから、というイメージがあるが、
古語の「やがて」には、「すぐさま・ただちに」という意味があるので注意しよう。

問７ ア
【解説】「肝心」とは、肝と心で「精神」とか「正気」という意味を持つ。

問８ たいまつ
【解説】松のやにの多い部分を束ねて燃やして照明器具にしていたので、松で
「たいまつ」のことになる。※現在は「松明」でたいまつと読む。

© 2019- ゆみねこの教科書

問９　エ

【解説】もともとは「奥山に猫またがいる」という話だったが、「山ならねども、これらにも、猫の経上がりて、猫またになりて…（山でなくても、このあたりにも猫が年月を経て変化して猫またになる」と聞いたから用心しているのである。

問１０　飼ひける犬

問１１　ア

【解説】
法師が大声で助けを呼んだため、近くの家から人がたいまつを持って駆けつけてくれたのであって、たいまつを持っている人を見かけたわけではないので、アが誤り。

問１２　あやまたず、足もとへふと寄り来て、やがてかきつくままに、頸のほどを食はんとす。

問１３　ア

【解説】「夫が」とあるので、夫が〇〇したと考えてしまいそうだが、これは「夫の」という意味となる。つまり、夫の状（夫の言うこと）と少しも違わないという意味となる。妻が言っていることが、夫の言うこと少しも変わらないということとなる。

問１４　ウ

【解説】「いみじき」は「並々でない・すばらしい」という意味を持つ。
（参考：ひどい・恐ろしいという意味も持っている）「成敗」には、「裁定・決裁」という意味があり、ここでは軟挺を落とした主と、夫の問題に対して「すばらしい判断」をしたという意味となる。

問１５　ウ

【解説】この話は、猫またのうわさを信じた法師が、うわさに惑わされてしまった結果、ただの飼い犬を猫まただと思って大騒ぎするこっけいさをテーマにしている。

© 2019- ゆみねこの教科書